

第10章 2. ヨーロッパ諸国の海外進出 世界貿易の流れ (復習)

11世紀の十字軍以降、アジアとの貿易は[20 地中]海を經由し行われた[21 東方]貿易が中心であった。そしてその窓口として発展したのがベネチア、[22 ジェノヴァ]といった[23 北イタリア]の諸都市であった。この地方でルネサンスが発生したのもこの事実を背景にしている。

ところが[24 15]世紀末になるとこの状況は大きく変わった。[25 ヴァスコダガマ]のインド航路の開発、[26 コロンブス]によるアメリカ大陸到着をはじめとする「大航海時代」のためである。こうしたなかで16世紀世界の商業をリードしたのが[27 スペイン][28 ポルトガル]の両国である。しかし後者は中継貿易中心だったこともあってしだいに衰え、1580年には前者に併合された。こうして「16世紀は[29 スペイン]の時代」とよばれることになる。しかしこの国も16世紀末に[30 無敵艦隊]がイギリスに敗れたこと、産業の中心であった[31 オランダ(ネーデルラント)]で独立運動がおこり、この国の船を攻撃したこともあっておとろえていった。

これにかわって17世紀前半に世界の商業をリードしたのがスペインから独立した[32 オランダ]である。しかしこの国も[33 中継]貿易の傾向がよまると、また[34 イギリスオランダ]戦争でイギリスに敗れて衰退した。

17世紀後半になって有力になったのが[35 イギリス]である。またこれに対抗し急速に植民地獲得に乗り出してきたのが[36 フランス]である。この国は[37 コルベール]の[38 重商]主義政策にもとづき、アジア・アメリカに進出、植民地においても100年以上にわたり断続的に争いをくりひろげた。これを[39 第二次英仏百年]戦争と呼ぶこともある。

a. アジア市場の攻防

- ①ポルトガル…[40 バスコダガマ]の航海により[41 インド]航路開拓
[42 イスラーム]商人と競合しつつ進出、[43 香料]貿易に従事→中国・日本との貿易開始
- ②スペイン…フィリピンを領有(拠点[44 マニラ])→[45 太平洋]を横断、[46 メキシコ]と結ぶ
- ③オランダ…16世紀後半から、[47 ポルトガル](スペイン)と対抗しつつアジアに進出→モルッカ諸島・マラッカ・スリランカ占領
1602年 [48 東インド]会社設立→[49 バタビア]を拠点にインドネシア方面へ進出
↓ 現ジャカルタ
1623年 [50 アンボイナ]事件でこの方面から[51 イギリス]勢力を駆逐
→オランダ領東インドの基礎を作る
- ・南アフリカに[52 ケープ]植民地建設
- アンボイナ事件…モルッカ諸島のアンボイナ島で [53 オランダ]人が[54 イギリス]商館員や雇用[55 日本]人多数を殺害した事件。インドネシア方面でのオランダの支配権が確立した。
- ④イギリス…[56 インド]中心に。拠点[57 カルカッタ][58 ボンベイ][59 マドラス]
↓
17世紀後半 [60 イギリス=オランダ]戦争で、世界貿易の覇権を握る
- ⑤フランス…ルイ14世時代、コルベールの[61 重商]主義政策下、海外進出を本格化
→総督デュプレクスのもと[62 インド]進出をはかり[63 イギリス]と激しくあらしう
(拠点[64 ポンジシェリ][65 シャンデルナゴル])

1757年[66 ブラッシー]の戦いで[67 クライブ]率いる英東インド会社軍に破れる
→イギリスのインド支配確立へ

ポルトガルにかわってアジアに進出してきた国は[68 オランダ]である。この国は現在の[69 インドネシア]方面に進出、[70 アンボイナ]事件でイギリス勢力を駆逐、また東アジアでは[71 香料]貿易を独占した。

1600年、[72 東インド]会社を設立し、アジア進出へのりだしたイギリスはインドネシア方面をおわられたのち[73 インド]方面に勢力を集中、[74 カルカッタ][75 マドラス][76 ボンベイ]を根拠地に勢力をのばしていった。これにたいしおくれて進出を開始した[77 フランス]もシャンデルナゴル、ポンジシェリなどを拠点にインドへの進出をめざしイギリスと対立、1757年の[78 ブラッシー]の戦いで決定的な敗北をきった。これ以降イギリスは弱体化した[79 ムガル]帝国に圧力を加え、インド支配を確立していく。

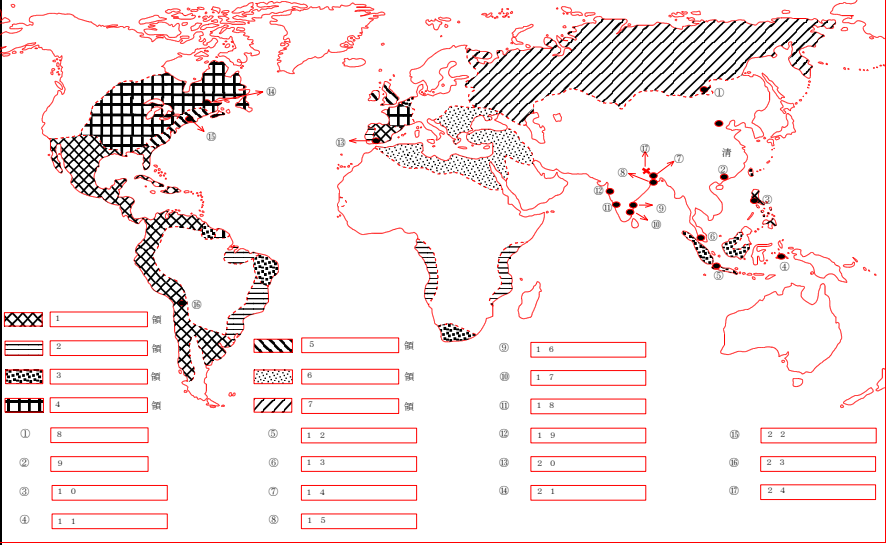
b. アメリカにおける植民地争奪

中央・南アメリカはポルトガル領の[80 ブラジル]を除いて[81 スペイン]が植民地化し、[82 黒人奴隷]を用いた[1 プランテーション]開発を進めていた。

オランダも1621年[2 西インド]会社を設立、奴隷貿易に従事する一方、北アメリカ東岸に[3 ニューネザーランド]植民地を建設した。[4 フランス]は17世紀にケベックを中心に[5 カナダ]に進出、ルイ14世のもとミシシッピ川流域の広大な[6 ルイジアナ]植民地を獲得した。

イギリスは17世紀初頭の[7 ヴァージニア]植民地の建設以来、北アメリカ大西洋岸に植民地をたてた。ここには[8 宗教]的な移民などが多く住み着き、強い[9 自治]意識を持ち[10 植民地議会]なども生まれていった。また17世紀後半の[11 イギリスオランダ]戦争で[12 オランダ]のニューネザーランド植民地を奪い、その中心であった[13 ニューアムステルダム]をニューヨークと改称した。こうしてこの地には[14 13]州におよぶイギリス領の植民地が形成された。

17世紀後半以後、[15 フランス]が海外進出をつよめるなか、英仏両国は北米やアジアなどで100年以上にわたって断続的に争いをくりひろげた。([16 第二次英仏百年]戦争)。18世紀中期[17 七年]戦争と並行しておこった[18 フレンチアンドインディアン]戦争でフランスはイギリスに敗北、1763年の[19 パリ]条約で北米の植民地をほぼすべて失い、イギリス植民地帝国の基礎が確立された。



17世紀なかばのヨーロッパ諸国の植民地